

# いわて町ラボとは？

岩手町SDGs

未来都市

共創プロジェクト



「**いわて町ラボ**」は、岩手町を舞台に実施している「リビングラボ (Living Lab)」のこと。

「リビングラボ」は世界各地に広がりつつあるまちづくりの手法の1つで、ヨーロッパで生まれ、特に**北欧**で発達しました。様々な立場の方々が対話を通じてビジョンを共創し、実際の現場で少しずつ実験を重ねながらビジョンを形にしていくのが「リビングラボ」のアプローチです。

「**いわて町ラボ**」では、地域内外の様々な立場の方々が一緒になって**岩手町**の未来を思い描き、その未来像を実現するための過程を未来から現在へと逆にさかのぼって話し合いながら、様々なプロジェクトを検討し、実証実験を行い、共に試行錯誤をしながら町を元気に、楽しくしていく取り組みを行っています。

2020年度

- 町の強みが発揮できる3つの分野を設定
  - ①農業 ②森林・ものづくり ③健康・スポーツ
- 地域内外の118名がビジョンとアイデアを共創



2021年度

- 3分野のもとで、7つのプロジェクトを発足
- 52名の方々がプロジェクト活動に参加し、チームとして実証事業を検討・実施



2022年度

- 分野横断型の様々なプロジェクトが派生・展開

**現在18件のプロジェクトが検討・推進されています！**

# いわて町ラボ2022東京セッション

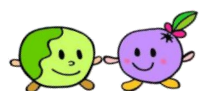
岩手町SDGs  
未来都市  
共創プロジェクト



東京にて、SDGs未来都市づくりや岩手町での事業開発に興味のある個人・企業・団体の皆さまに対して、いわて町ラボの概要や関連企業様の取り組みについてご紹介しました！！



政策アドバイザーの藤倉潤一郎氏による企画で開催した本セッションには、ベンチャーから大手企業、士業の方々までが集い交流を通して事業機会の発見や町との連携の機会発掘につなげていただく会となりました。



出席された多くの企業様が岩手町でのSDGsの取り組みに興味を示され、各社が持つ町を良くするソリューションや事業の展開を模索していただく機会となりました。



# 美しい100年の森プロジェクト

岩手町SDGs  
未来都市  
共創プロジェクト



誰もが森に関われる仕組みづくりを目指し、大型機械を使わずに実施できる自伐型林業を紹介しました。皆伐をしない長期の多間伐施業は環境保全型の林業としても注目されています。



自伐型林業で山林を管理している九戸の森林を視察



今後はチェーンソーや道づくりなどの森づくり研修を実施していきます。

本プロジェクトでは、「美しい100年の森づくり」の実証フィールドを町内に設けます。全くの初心者から森林のプロまで。森づくりに興味がある方は是非ご参加ください！